



横浜市立富岡小学校

学校だより 9月号



前期後半がスタートしました

校長 浅野 修一

2週間という短い夏休みが終わり、子ども達の元気な声が富岡小学校に戻ってきました。新型コロナウイルス感染防止に関わる休業期間があったため夏休みも例年よりかなり短くなり、また学校始業日も1週間早まった形ですが、子ども達は暑い中、頑張って登校してくれています。早くも始業から2週間が過ぎ9月となりますが、相変わらず暑い日が続く予想となっており、子ども達も疲れから体調を崩しやすくなるのが考えられます。学校でも注意深く見守ってまいります、ご家庭でもお子様の体調についてご配慮いただきますようお願い申し上げます。

子ども達の体調に関連して現状をとらえて考えると、新型コロナウイルス感染防止に加えて熱中症対策も喫緊の課題となっています。本校では次のような対策をとり、子ども達を熱中症から守っています。

まず1点目は、WBGT計による熱中症指数の計測です。富岡小学校には横浜市より、気温や湿度などをもとに熱中症の危険度を表示できる「WBGT計」が4台配布されており、校庭や体育館、保健室などで子どもの活動に合わせて計測を行っています。規定以上の



暑さ指数が出た場合は、そこでの活動を中止します。併せて、神奈川県より発出される「高温注意情報」や「熱中症警戒アラート」の情報も参考に、対応を判断しています。夏休み明け以降、この指数が規定を超える場合が多く、休み時間や体育学習などで校庭を使う機会が減っています。



2点目は、日常化しているマスク着用についてです。新型コロナウイルス感染予防対策としてマスク着用は重要ですが、一方で熱中症を引き起こす危険の増大につながる可能性が指摘されています。そこで本校では横浜市教育委員会からの通達に基づき、周囲の状況を確認（ソーシャルディスタンスを保つ、密閉空間ではない等）し、しゃべらないことなどに注意した上で、特に登下校時は必要に応じて適宜マスクを外してもよいとしています。

その他、教室内の適切な温度管理や水分補給時間の確保など、全教職員が共通理解をもちながら対応しています。コロナ感染予防対策と熱中症防止対策は、マスクの着用など相反する部分がありますが、状況に応じて適宜対応していく必要があります。コロナからも熱中症からも子ども達を守らなければなりません。まずは手洗いうがいなど、日常生活における感染防止の取組をさらに徹底するとともに、自分と周りの人の命と健康を守るための判断や対応ができるよう指導してまいります。皆様のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

さて、この度体育館の改修工事が行われました。フロア全面を削り平らにした後、必要なラインをペイントし、ニスやワックスなどでコーティングしました。見違えるほど明るくピカピカの体育館になりました。コロナが終息し、体育はもとより集会や発表会などで、たくさんの保護者や地域の皆様を体育館にお招きできる日が早く訪れることを、心から願っております。

